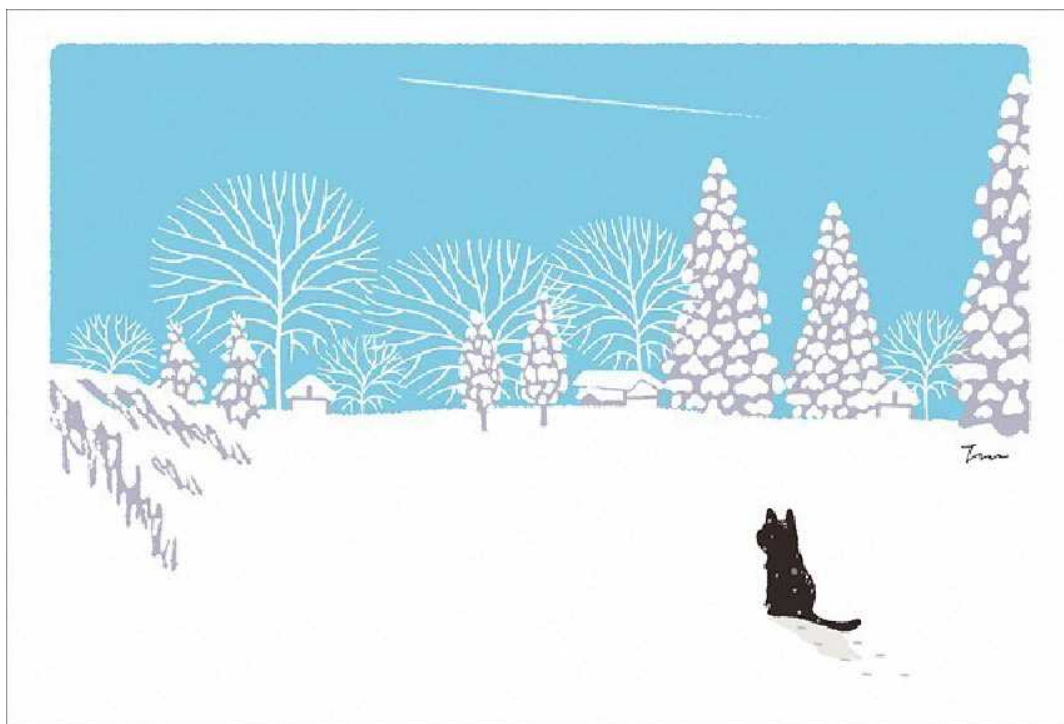


地域経済の発展は人材育成から —一生勉強、一生青春—



2019年12月5日(木)

16:20~17:50

作新学院大学第2教育棟210教室

開倫塾 塾長 林 明夫

公益社団法人栃木県経済同友会幹事

公益社団法人経済同友会幹事(東京)

<はじめに>

Q 1 : 自己紹介を兼ねて好きなことばを紹介してください。

- A : (1) ① 「初心忘るべからず」
② 「離見の見(りけんのけん)」…舞台で舞う自分を離れた観客席から見る(世阿弥)
(2) 「持続する志(こころざし)」 (大江健三郎)
(3) 「歴史における個人の役割」(岩波文庫) (プレハーノフ)
(4) 「教育ある人とは(一生)勉強し続ける人」 (ドラッカー)
(5) 「一生勉強、一生青春」 (相田みつを)

皆様の好きなことばは何ですか。3つ書いてみてください。

- (1) _____
(2) _____
(3) _____

<企業研究>—開倫塾

Q 2 : 開倫塾の事業内容、経営の基本理念、目指すものとは何ですか。

- A : (1) 開倫塾の事業内容
①創業… 1979年、会社設立… 1984年
②本社… 栃木県足利市、校舎… 栃木県・群馬県・茨城県・東京都
③提供するサービス… 小中高生への「教育サービス」
* 2019年から開倫塾日本語学校も開校
- (2) 開倫塾の全体で共有する「経営の基本理念」
①「顧客本位」
・「塾生」「保護者」「地域社会」を「顧客」と「定義」
・「顧客の成功の実現」を目指す
②「独自能力」
・「競合比較」
・「ベストプラクティスのベンチマーキング」…社内・同業他塾・異業種
・「学習する組織づくり」
③「社員重視」
・ Empowerment エンパワーメント
・ 能力強化
・ 権限委譲

④「社会との調和」

- ・社会貢献活動の推進
- ・SDGs…社会的企業を目指す
- ・開倫ユネスコ協会の活動支援…「人間の安全保障の推進」が設立の基本理念

(3) 開倫塾が目指すもの

①「教え方日本一の本格的進学塾」

- ・「レスンプランに基づいた授業」
- ・「全国模擬授業大会の開催と活用」

* 毎年 5 月最終日曜日、2020 年は 5 月 31 日に白鷗大学足利高校、JR 足利駅南口校舎をお借りして、第 15 回記念大会を開催

- ・「トップ校を含む第 1 志望校合格」「学校成績大幅アップ」「3 大検定合格」を目指す

②「自己学習能力の育成」「自分から進んで学ぶ力」「主体的に学ぶ力」

- ・「アクティブ・ラーニング」に耐えられる「自己学習能力」

③「効果の上がる学習の仕方」「学習の 3 段階理論」を身に着けること

- ・「教育の成果を決定する要因」は、「本人の自覚」と「先生の力量」
- ・「本人の自覚」を促すことも「先生の力量」
- ・「武者語り(むしゃがたり)」の奨励

④「読解力」を身に着けること

- ・「辞書」を用いて、「ことばの数」「語彙数」を増やす
(意味調べノート・カード)
- ・「新聞」を毎日読み、「自分で考える力」「批判的思考能力」を身に着ける
(スクラップブック)
- ・「本格的な読書」で、「思慮深さ」を身に着ける
(書き抜き読書ノート)

* 学校図書館、公立図書館など「図書館」の活用を奨励

⑤このような意味での学力を身に着けて

- ・「多様な選択肢のある人生を歩むこと」
- ・「正常に機能する社会(持続可能な社会)の形成に貢献すること」
- ・「自律的に行動する能力」



Q 3 : これからの社会はどのような社会だとお考えですか。そこで求められる能力は何だとお考えですか。

A : (1) 「知識基盤型社会 (Knowledge Based Society)」

- ① 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」
- ② 「ウェアラブル」「スマホ」「タブレット」「パソコン」を組み合わせて用いる能力
 - * 「スティーブ・ジョブズ」の伝記は必読
- ③ 「AI、IoT、5G」などの動向と社会との関係についての基本的知識、情報収集

(2) 「グローバル化社会」

- ① 「多様な集団で行動する能力」
 - * 「コミュニケーション能力」
- ② 日本語、日本の地理・歴史・文化・芸術・伝統、日本のよさについての基本的認識
 - * 日本の「古典」を読み、「古典」に慣れ親しむこと…「時空を超えた著者との対話」
- ③ 同様に、関係する国や地域についての基本的認識
 - * 英語は必須…英語を「読む・聞く・話す・書く」の「4技能」
英語プラス1か国語にも挑戦を
 - * 関係する国の「古典」を、日本語でもOKなのでじっくり読むこと
言語・地理・歴史・文化・芸術・慣習も学ぶこと

(3) 「課題山積(さんせき)社会」

- ① 日本は超少子高齢化
- ② 世界は人口爆発…特にアフリカ諸国などの新興諸国
- ③ 地球温暖化…気候変動、異常気象、頻発する大規模自然災害
 - * 求められるのは、「課題発見能力」、「課題解決能力」、「高い志」をもって「自律的に行動する能力」

Q 4 : このような社会で活躍するための「大学での学び方」、「社会での学び方」をお話してください。

A : (1) 大学での履修教科は、一定の時間をかけて徹底学習

- ① 毎回の授業範囲の教科書・参考文献は、授業の前にノートを取りながら「完全理解」に努める
- ② 授業は、できるだけ最前列で一語も聞き漏らさないように聴講
 - ・大学では、必要なことはすべてノートに取る
- ③ 授業後は、教科書・参考文献をもう一度読み返しながらノート整理
- ④ 試験 2 か月前から、教科書・参考文献・授業ノートを、スミからスミまで覚えて、すべての試験に臨む

- ⑤ 「レポート」・「卒業論文」・「修士論文」は、余裕をもって本気でじっくり取り組む。
 計画を練り、構想を考え、
- ・まずは「下書き」、「校正」、「修正」
 - ・報告や発表のときは「リハーサル」を

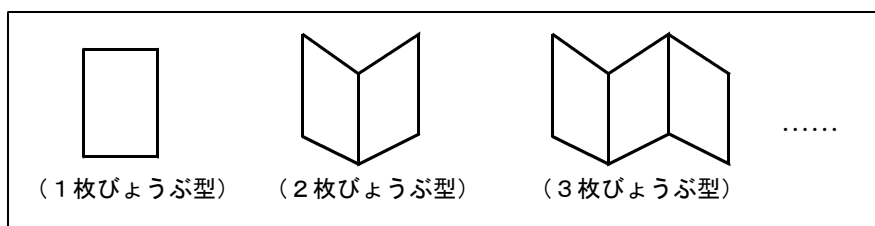
(2) 大学での勉強のポイント

- ①高校の教科で不足している学習内容があったら、一刻も早く高校の教科書や参考書を用いて学び直す
- * 講談社刊の「ブルーバックス」シリーズ(新書版)がお勧め
- ②学年末試験が終わり春休みに入ったら、新学年までの2か月間は、今の学年の「復習」と同時に、次の学年の「予習」を
- ・次学年のテキストは、1月末までに買いそろえる
 - ・大学・大学院では授業がスタートするまでに、テキストはノートを取りながら、1教科でも多く全ページ読み切る
- ③大学図書館や地域の図書館を「学習スペース(Learning Space)」として最大活用
- * 大学生・大学院生は、開館時間から閉館時間まで、大学図書館や地域の図書館で、長時間自己学習の習慣を身に着ける

(3) 社会人になっても、高校・大学での勉強を継続して行う。一生学び続ける

- ①高校・大学の教科書や資料、授業ノートは絶対に処分しない
- ②大学院にも進学する…卒業して何年か、また、何十年か経ってからでも OK
- ③テーマを決めて、一生学び続ける

<びょうぶ型人生>…一生学び続けるテーマがいくつかあると趣深い



すべての基本は、小学校・中学校・高校・大学・大学院での勉強

Q 5 : 最後に一言どうぞ。

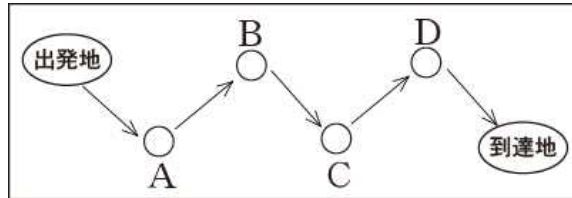
A : (1) 「地域経済の発展は人材育成から」

- ①原則は、一人ひとりの「自立」→「自律」
- ・「自己責任」
 - ・「自助努力」
 - ・「自分の未来は自分で切り開く」
 - ・「あきらめたらおしまい」

② 「自立」 → 「自律」した個人が、「目的」「目標」をもつ。

各自が自分のもつ潜在能力(よさ)を発揮して、はじめて、企業・非営利企業・様々な団体は、その「目的」「目標」を達成できる

* 「経営」とは「営み」を「経て」、企業などの「目的(ゴール)」や「目標(ゴールに至る一里塚)」に到達すること



③ 「企業と守成」

- ・まずは、「創業(スタートアップ)」と「イノベーション」
- ・求められるのは「無(ゼロ)から有をつくり出す」「起業家精神」「企業家精神」
- ・次に大切なのは、「守成」の精神。できたものを「守り続ける精神」

* この「創業と守成」ということばは、中国・唐の繁栄の基礎を築いた「太宗」の教えをまとめた「貞観政要(じょうがんせいよう)」というリーダーシップの古典で語られている

- ・原田種成著「貞観政要(上下)」新釈漢文大系、明治書院刊が最高のテキスト

(2) 「創業と守成」のためには、「組織」と「リーダー」が欠かせない

① リーダーとは何か

- ・「サーバント・リーダーシップ」(ロバート・グリーンリーフ)という考えも
- ・「リーダーシップ論」の勉強を

② 組織の基本は

- ・メンバーの一人ひとりが「強み」、「潜在能力」を発揮すること
- ・不足する分野を補い合うこと
- ・「組織論」の勉強を

③ 「人事労務」、「経営」、「財務(M and Aを含む)」、「ガバナンス」の勉強も

(3) 「競争力強化」は基本中の基本

- ① 「マーケティング」(AI、IoT、5Gの活用)
- ② 「海外事業」(ダイバーシティ・マネジメント)
- ③ 「国際競争力強化」が決め手

* 産学官が連携しての「地域としての国際競争力強化」、とりわけ、「地域が一体となつての人材育成」が、「地域経済活性化」には求められる

ご清聴ありがとうございました。心から感謝いたします

ご質問・ご意見・コメントがありましたら、ご自由にご発言ください

感謝

ロバート・K・グリーンリーフ著『サーバントであれ—奉仕して導く、リーダーの生き方—』英治出版、2016年2月23日刊を読む

サーバントリーダーの特徴と役割

1. 傾聴

- (1)優れたリーダーは「高いコミュニケーション力」と「意思決定力」を持つ。
- (2)この能力は「他のメンバーの話を全力で傾聴すること」で強固になる。
- (3)サーバントリーダーは、「グループの意志を見つけ出し、その意志を明確にしよう」と努力。
- (4)口に出して話されることに、そして話されないことにも、ありのままに耳を傾けようとする。
- (5)「傾聴」は、「自分の内なる声と対話すること」や「身体と精神が交わす言葉を理解しよう」とすること」も含まれる。
- (6)「傾聴」は、折にふれて「リフレクション(内省)すること」と同様、サーバントリーダーの成長に不可欠。

2. 共感(親身になって話を聞く)

- (1)サーバントリーダーは、「メンバーの話を理解して共感すること」に全力で取り組む。
- (2)人間には、唯一無二の心のあり方がありそのために受け容れられ、認められる必要がある。
- (3)メンバーが誠意から行動することを疑わず、メンバーの行動や仕事ぶりが、とうてい容認できないという場合でも、メンバーを人としてはねつけることはない。

3. 癒し

- (1)人間関係にあるべき姿にすることは、組織を変革・統合する強い力になる。
- (2)「自己を癒し、他のメンバーとの関係を本来の姿にすること」。
- (3)多くの人が心を懐し、さまざまな痛みを負ってきた。
- (4)サーバントリーダーは、自分が関係する人たちに「全体性をもたらす」可能性をもっていることを自覚している。

4. 気づき

- (1)広くさまざまなことに気づく力、とりわけ自己認識力を高めること。
- (2)「気づきの力」を高めようと努力すること。「気づきの力」があると、倫理や価値観などの問題を理解しやすくなる。
- (3)もっと、統合的、全体的(オーリスティック)な立場に立って状況を見られるようになる。
- (4)気づきは安堵を与えてくれるものではない。心をかき乱し、目を覚まさせてくれるもの。神経を研ぎすませ、理性を損なうことなく不安を感じる。「内なる平和」を持つ。

5. 説得

- (1)サーバントリーダーは、組織の中で意思決定をするにあたり、地位に基づく権限ではなくもっぱら説得を手段とする。
- (2)無理やり従わせようとするよりは、むしろ、メンバーを納得させようとする。
- (3)そして、グループ内でコンセンサスを形成する。

6. 概念化

- (1)サーバントリーダーは、「大きな夢を見る」力を伸ばそうとする。
- (2)これは、問題(あるいは組織)を概念化として捉える力であり、「日々の現実を超えて考える」必要があることを意味する。
- (3)経営幹部は、「方向性に関して概念的になる」こと。社員は、「円滑な業務を重視」すること。
- (4)サーバントリーダーは、「概念的な考え」と「集中して行われる日々の業務」との微妙なバランスを図ること。

7. 先見力

- (1)ある状況がどんな結果になるかを先見する力。
- (2)過去からの教訓や現在起きている現実やある決定が未来にどんな結果をもたらすかを理解すること。

8. 執事役

- (1)「執事の職務(スチュワードシップ)」とは「誰かのために何かを預かること」
- (2)「社会により大きな利益をもたらすために組織を預かること」
- (3)「他の人の必要性に全力で応えること」
- (4)「支配するよりは、むしろ、心をひらいて話すことや説得すること」

9. 人々の成長への関与

- (1)「人々には、労働者として目に見える貢献をする以上に、本質的な価値がある」とサーバントリーダーは信じている。
- (2)そのために、「組織」にいる全員の成長に全力を注ぐ。
- (3)「従業員が人間として、職業人として、また精神的に成長するためならどんなことでもする。」
- (4)人間として成長したり、専門能力を伸ばしたりするために資金を使えるようにする。
- (5)あらゆる人からのアイデアや提案に、個人的な関心を寄せる。
- (6)社員にも意思決定に加わってもらう。
- (7)解雇された人が次の勤め先を見つけるのを手伝う。

10. コミュニティーづくり

- (1) 同じ組織で働く人たちの間でコミュニティをつくる。
- (2) 会社などの組織で働く人たちの間でも本物のコミュニティをつくるができると考える。
- (3) 大勢のためになるような存続可能なコミュニティをつくるには、十分な人数のサーバントリーダーの一人ひとりが、自分が無限の責任を負っていることを示し、進むべき道を明らかにすること。

P15 ~ P20

11. 有能なマネジャーとは

私は経営開発の分野に特に関心を持っています。そのため非凡な経営手腕が発揮された組織については必ず詳しく調べます。するとたいてい「一人の有能なマネジャー」がいます。

- (1) 「部下の隠れた能力を開花させ、重い責任を立派に果させる力がしっかり育つようにその部下を導く才能を持つ」
- (2) 「経営技術の重要な教訓を得るには、ミスによって引き起こされる事態に耐え、その経験全体から学ぶ以外にない」
- (3) 「ミスをしないようにする、ミスが起きたときに、それによって引き起こされる結果を受け容れる、そこから学び、すべてを清算して、罪悪感を覚えることなく一からやり直す。」
- (4) 自分が個人として大切な存在であるという意識を持ち続けることが重要。私は過去あるいは未来のどんな人とも違う創造の担い手。
- (5) どんなミスをしようと、結果を受け容れて、そこから学ぶことによって、必ずもっと強くなって立ち直ることができます。

ロバート・K・グリーンリーフ著「サーバントであれ」英治出版 P116 ~ P117

